

01 目黒区の基本

1 目黒区の被害想定

目黒区は、「都心南部直下地震」の被害想定を基に防災対策を行っています。



被害想定的前提条件

- ・ 都心南部直下地震（震源地●の辺り）
- ・ 区内の大部分が震度6強（最大震度7）
- ・ マグニチュード7.3
- ・ 冬の夕方
- ・ 風速8m/秒
- ・ 晴れの日

※令和4年5月25日公表東京都防災会議より

この地震が起こった時あなたはどうしますか？

※地震だ！まずどうする？ 7ページ

そして、目黒区の被害は？

建物の被害

全壊棟数 **1,827棟**（区内建物総棟数※の3.2%）
半壊棟数 **4,551棟**（区内建物総棟数※の8.1%）

地震に強いうち対策 65ページ

旧耐震基準の建物に住んでいる方は、耐震診断により、建物の状態を確認し、必要であれば耐震工事を行いましょう。
併せて、住んでいる地域の建物倒壊危険度マップを確認しておきましょう。

焼失棟数 **4,426棟**（区内建物総棟数※の7.9%）

火災に強いうち対策 66ページ
初期消火対策 20ページ

出火棟数は14件。この14件からの延焼で、4,426棟の建物が焼失します。
初期消火と事前の出火・延焼対策が重要です。
併せて、住んでいる地域の火災危険度マップを確認しておきましょう。

※区内建物総棟数は令和4年5月時点の数値

人の被害

負傷者数 **2,064人**
自力脱出困難者数 **570人**

救出・救助が必要な方 12ページ
緊急医療救護所 14ページ

負傷したら、まずは隣近所で助けあうことが重要です。
阪神・淡路大震災でも、9割以上の方が自助・共助により救助されています。

帰宅困難者数 **58,466人**

帰宅困難者対策 25ページ

これは、交通機関の停止などにより、目黒区から帰れなくなる人数です。
事業所や学校などの施設管理者は、帰宅困難者への支援や対策が必要です。
また、自身も帰宅困難者になる可能性があることを踏まえ、備えておきましょう。

避難所生活者数 **47,448人**

避難するときは 41ページ

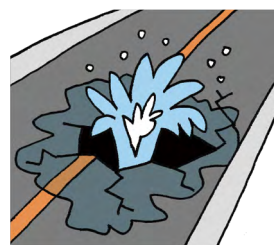
自宅が無事で、生活できる状況であれば「在宅避難」が基本ですが、
やむを得ず避難所で生活することになるかもしれません。
避難することになったときの経路や避難所を事前に家族で確認しておきましょう。

死者数 **161人**

※被災後の健康管理 83ページ

この数字をあなたは多いと思いますか？少ないと思いますか？
この内、9割以上の方が火災や建物倒壊で亡くなります。負傷者の大半も同じ理由です。
耐震対策や初期消火、出火・延焼防止対策を行うことで、これらの被害は大幅に減らせます。
被害を受ける方を減らすには、自助と共助が機能することが重要です。
この数値は避難生活の疲労やストレスなどをきっかけとした「災害関連死」を含みません。
災害関連死を減らすには、被災後の健康管理※が欠かせません。

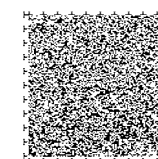
ライフラインの被害



停電率 **15.7%** 復旧まで 4日間
水道断水率 **25.2%** 復旧まで 17日間
下水道管被害率 **6.5%** 復旧まで 21日間
ガス供給停止率 **47.3%** 復旧まで 6週間
固定電話不通率 **8.1%** 復旧まで 4日間

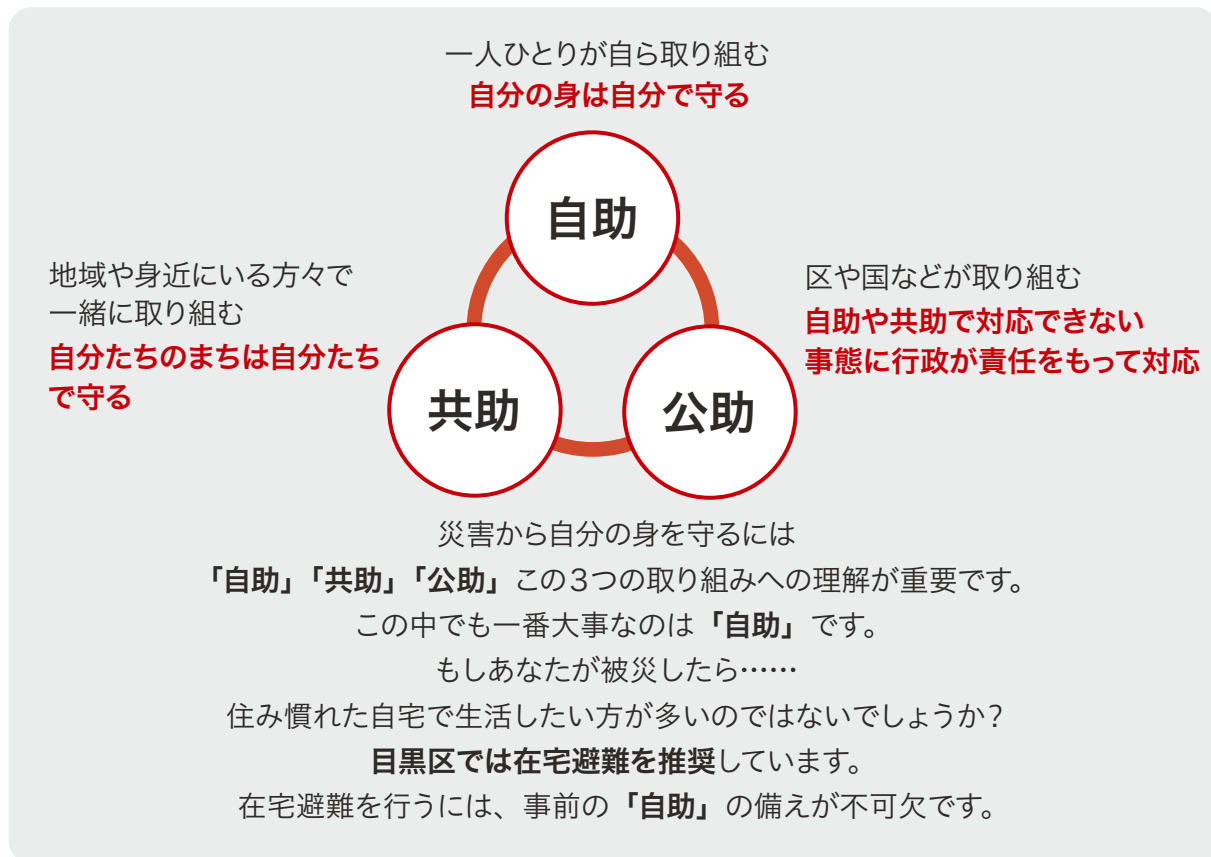
※復旧までの日数は都内全域が復旧するまでの目安日数です。

ライフラインが被害を受けると、生活のあらゆる場面に影響が及びます。
上下水道が使用できなければ、トイレの使用や入浴ができなくなります。
また、停電は夜間の発災時における避難行動や安全確保を困難にするほか、
テレビなどによる情報収集も妨げられます。
ガスの供給が止まると、上下水道が無事でも入浴が難しくなり、
ガス火による加熱調理ができなくなります。
区内の大部分では携帯電話を使用できる方が20%以下にとどまる可能性があり、
普段使い慣れたスマートフォンでの情報収集ができない場合があります。
いずれのライフライン被害に対しても、平時からの備えが何より重要です。



音声コード掲載

2 災害の被害を軽減する3つの取り組み



在宅避難※の準備

※在宅避難とは 55ページ

自助
各自の
取り組み

考え方は、
『被災後に自宅で生活するにはどんな準備をしておけばよいか』

どんな物資があると被災後も生活を続けられますか？	在宅避難のための備蓄 59ページ
被災したらどうやって自宅の安全を確認する？ 在宅避難をするには日頃からどんな対策が必要？	引き続き自宅での生活が可能か 確認しましょう 23ページ 家具の転倒防止 61ページ
停電時はどうやって情報を取得する？ 家族との連絡は？ 被災後の支援制度はどうやって知ればいい？	情報収集 63ページ 安否確認 96ページ
自分の状況にあった備えを知りたい。	集合住宅にお住まいの方へ 68ページ 各家庭にあわせた備え 71ページ

次に大事なものは「共助」です。

大規模災害時、自宅が被害を受けた被災者は、避難所で生活を送ることになります。
その場合、行政やボランティアの協力もありますが、あくまでも避難生活の主体は「避難者」です。
「共助」には、事前の準備と発災後の協力が不可欠です。

被災後の地域の協力・助けあい

共助
地域の
取り組み

考え方は、『自分たちのまちをどうやって自分たちで守るか』

避難所で生活することになったけど、 自分には何ができる？	避難所での生活 45ページ
避難所や事業所の震災対策に協力したい！ 地域の防災訓練に参加したい！	地域での協力・たすけあい 77ページ
災害時に地域の役に立ちたい！ 支援が必要な方を助けたい！	防災ボランティア 81ページ 要配慮者とは 85ページ

最後に、目黒区の「公助」です。

平時からの避難者用の水や食料などの備蓄、災害時の様々な情報発信、救助活動など、
自助や共助で対応しきれないことには行政が対応します。
区は、円滑な「公助」を行えるよう様々な準備をしています。

公の機関による救助や支援

公助
行政の
取り組み

考え方は、
『どうしたら被害や被災者を減らせるか？』
『円滑な生活再建にはどんな準備が重要か？』

自分だけで事業や生活を再建することが 難しく、支援が必要。	被災後の生活再建 91ページ
自宅や避難所で備蓄が足りなくなった。	避難所の備蓄品・資機材 48ページ
自分ができる防災対策や区の取り組みが 知りたい。	防災啓発事業 95ページ

